

SSKS

2023. 11月号

No. 556

せんかわだより

～あるがままに あたりまえに～



さつまいも 出てこ～い!



「千川おひさま幼児教室」の恒例行事のひとつ。秋のさつまいも掘り!

今年も秋晴れの櫻井農園さんでさつまいも掘りを行いました。自然と触れ合い、季節を感じることでできる行事のひとつです。さつまいもより土が好きな子。土は苦手だけど、さつまいもはゲットしたい子。大人のを借りることなく黙々と掘り続ける子。今回も普段の活動では見られない、さまざまなお子さんの姿を見ることができました。



社会福祉法人 武蔵野千川福祉会

<http://www.musashino-senkawa.com>



活動を通して「人とかかわる力」を身につけていく

～千川おひさま幼児教室で大切にしていること～

千川おひさま幼児教室は、発達が遅く、ゆっくりな幼児を対象に、日常生活における基本的な動作の指導・知識技能の付与・集団生活の適応訓練などを行うことを目的とした児童発達支援事業所で、国が定めている「児童発達支援ガイドライン」に基づいて事業を行っています。

千川おひさま幼児教室では、実践の質・職員の力量向上のため、年8回の「おひさま学習会」を行っています。講師は当法人理事長の菅野です。学習会では日々の実践を振り返り、深めていくために実践報告を毎回行っています。今回は学習会でのとりくみや学びを紹介していきます。

実践を積み重ね、学習会で確認する

今年度の学習会での実践報告は「朝のおしたく」について、昨年度からの継続で行っています。昨年度はおしたく的环境づくりをすることを重点的に学んできました。空間を狭くし、動く距離を「短く」から「遠く」へ、大人との距離を「近く」から「遠く」へすること、どこに・何を置くかを固定することで、子どもにとってわかりやすい環境づくりを目指した実践を積んできました。

今年度は環境に加え、主に「おしたくの手順」の整理について学んでいます。

朝のおしたくは毎日行う活動です。毎日同じことをくりかえし行うことで身につけていくことです。職員は、子どもたちが手順に沿っておしたくをすすめることができるかの「確認・評価」をしながら次のステップに進めなければなりません。学習会では、おしたくを手順に沿ってとりくむことができるようにするために、どのようなやりとりがその子に合っているのかを考えること、1つの方法ではなく、いくつかの方法を常に用意して支援の引き出しを多くすることなど、学ぶことはとても多いです。

武蔵野千川福祉会における利用者支援の方針に「できることは続ける・できることを増やす」があります。それは大人だけではなく、幼児も同じです。できていることを継続してもらうにはどのようにしたらよいか、できることを増やすにはどのようにしたらよいかを考え実践することが職員には求められています。

朝のおしたく的环境・やりとりの方法も年度初めと現在とは異なります。「1つひとつの手順を確認しながら進めていく」から「手順をまとめて進めていく」に変化させていますが、おしたくの手順をまとめても「確認・評価」の頻度は変えないことが重要だと考えています。「確認・評価」が少なくなってしまうと連動して職員とのかかわりも少なくなってしまう。職員とのかかわりが減ると、達成感も感じづらくなり、今までできていたおしたくができなくなってしまう。慣れてくると手順を変えてしまう、という子どもの姿は、職員が「確認・評価」を適切にしなくなった姿である、ということも学習会で学びました。

このように、実践していることを学習会で報告し、学習会で学んだことを実践する、ということ積み重ねていくことで職員の意識や実践の質の向上につなげていきます。



【先生に提示された荷物をさがします】

子どもに合わせた目標設定・やりとりしながら活動する

千川おひさま幼児教室では、「かだい」と称して、手指を使った活動を設定しています。

定員10名の事業所ですが、10名が1クラスとして同じ活動にとりくみます。集団で活動していますが、個々に目標は異なります。子どもの持っている力に合わせて、同じかだいであっても内容を変えているのです。シール貼りのかだいでは、シールの大きさ・形・数を子どもによって変えています。

紙を千切るかだいでは紙の大きさを変えたり、切り

込みを入れたり、子どもに合わせて教材も工夫しています。難しいことにチャレンジしてもらいたい気持ちはありますが、まずは「できること」ととりくみ、自信を深めてもらいたいと考えています。

そして、すべての活動はひとりですればよいとは考えておらず、職員とやりとりしながら、かわりあいながらすすめてもらうことが大事だと考えています。



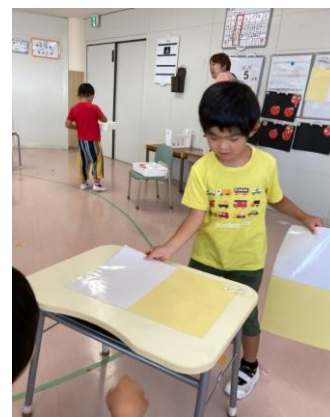
【同じシールのかだいでも大きさが違います】

活動の目的は人とかかわること

千川おひさま幼児教室では、年間を通して1日の活動内容が決まっています。「おしたく」「朝の会」「着替え」「うんどう」「かだい」「給食」「帰りの会」これら全ての活動において大切にしていることは、活動を通して「人とかかわる」ということです。職員と子どもがかかわる、子ども同士がかかわる。そのための手段のひとつが活動という位置づけです。人とかかわることを楽しむことができる、人とかかわることを嫌がらないという「人とかかわる力」のベースを幼児期に身につけることが重要だと考えています。

初めは職員が「かかわる」ことで関係性を築き、安定して活動にとりくむことからスタートします。安定という土台の上で、職員からの働きかけに応じる、職員やお友だちに関心を持つ、活動そのものに向かうことができるように、意図的に・工夫しながら活動を展開しています。ハサミが使えるようになったり、字が書けるようになったりするのはもちろん嬉しいですが、それを最大の目的にすることはありません。活動の目的は「人とかかわる」ことです。そのため、千川おひさま幼児教室ではたくさんのお手伝いを子どもに担ってもらっています。

引き続き、学習会などを通して「かかわる」をより具体的に、実践を深めていきたいと考えています。



【かだいを使用するものをお友だちに配るお手伝いをしています】

（文責：千川おひさま幼児教室 八田 麻衣）

赤い羽根共同募金へのご協力をお願いいたします



ひとりひとりの小さなお金。
そのお金に「誰かの助けになりたい」という
気持ちがおもって十人、百人、千人と集まれば、
大きな力に変わります。
赤い羽根は、小さなことをしています。
小さな活動をたくさん、何十年と続けています。
つまり、赤い羽根は、大きなことをしています。

意志あるお金、募金のチカラ。
赤い羽根共同募金



第77回・令和5年10月1日～令和6年3月

共同募金は、戦後間もないころから、市民が主体の民間運動として始まりました。社会の変化の中、共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決にとりくむ民間団体を応援する、「自分の町を良くするしくみ」として、とりくまれています。

【とびっくす】～インスタだより vol.4～ #あったかまつり



障害のある人が主役のお祭り！

というコンセプトで始まったあったかまつりは今年でなんと21回目。もちろん今年も参加させていただきました。

アート作品の展示だけでなく、お菓子やカレーなども販売させていただきましたが、嬉しいことにカレー、マドレーヌ、おからかりんとうはひとつ残らず完売。

お越し下さった皆さま、ありがとうございました！



今月の動向 ～令和5年10月～

- 3日(火) 職員研修 B型事業所学習会
- 7日(土) 武蔵野大学摩耶祭
- 11日(水) 職員研修 児童発達支援学習会
- 12日(木) 宿泊行事(ワークイン中町)
- 19日(木) 宿泊行事(八幡作業所)
- 21日(土) あったかまつり
- 22日(日) オープンカレッジ東京2023
- 23日(月) 職員研修 放課後等「付七」学習会
(職員研修)生活介護学習会
- 26日(木) 宿泊行事(武蔵境/キョウセツ)
- 31日(火) 職員研修 生活支援学習会
人権・権利擁護研修

来月の予定 ～令和5年11月～

- 1日(水) 職員研修 児童発達支援学習会
放課後デイ学習会
- 7日(火) 職員研修 人権・権利擁護研修
- 8日(水) 職員研修 B型事業所学習会
- 9日(木) 宿泊行事(ななほしワークス)
- 16日(木) 宿泊行事(千川作業所)
- 21日(火) 内定式
- 24日(金) 障害者の就労を考えるつどい
- 29日(水) 職員研修 職場のメンタルヘルス



社会福祉法人 武蔵野千川福祉会

<http://www.musashino-senkawa.com>

<発行人> 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 東京都世田谷区福形3-1-17-102 TEL 03(6277)9611

<編集人> 社会福祉法人 武蔵野千川福祉会 東京都武蔵野市境南町4-20-5 TEL 0422(30)0022 定価 50円